

樫谷議員 おはようございます。通告してあります3点について、一般質問をさせていただきます。まず1点目であります、牟岐町物産館千年サンゴの里の移転を。について質問させていただきます。前回より議会での懸念の声が上がっております、牟岐町物産館、千年サンゴの里ですが、経費を掛けるわりには儲けに至っていない、人の出入りが少ない、展示品が少ないなど、町民の中からもこのまま続けるには公費の無駄使いではないかというご指摘が多々あります。一方、牟岐町のPRがこれからも必要であるとの声も聞かれます。また、ボランティアで一生懸命頑張っていらっしゃる方もおられます。そこで、経費を掛けずに牟岐町のPRができる方法として、河内小学校の校舎を活用し1階に移転してはどうか、2階は牟岐町民俗資料館を展示する予定となっております。そこには、職員が1名張り付くことになっていると思いますが、この職員を活かせば月15万円、年間180万円の家賃とその上に人件費が加算されれば、大きく経費を削減することができます。また、現在の奥まった場所で見えにくいという課題もありますが、河内小学校であれば、美波町から牟岐町に入るカーブのど真ん中あたり、立て看板を上げれば、現在の場所より目立つのではないかと思います。勿論、現在使用の看板も利用は可能ではないかと思えます。また、民俗資料館との相乗効果も得られるのではないかと思います。3月議会の町長の答弁では、もう一年現在のままで頑張りたいというご答弁ありましたが、現状のままでは、取りやめざるを得ない状況になることも考えられます。そこで、牟岐町物産館千年サンゴの里の移転の提案をさせていただき、予算を削減し知恵と工夫を持って活性化に繋がるよう、尚一層の努力が必要と思えますが、町長自ら新しい試みとして、取り組んでおられます。再生会議での牟岐町ブランド化を目指す模索や農業、漁業の活性化や商工業、サービス業にいたり健康をテーマに10回と会を重ね議論をされています。この再生会議が実り多いものとなり、牟岐町物産館千年サンゴの里がその窓口になれるよう、努力に努力を重ね観光業も含めての人が集まる千年サンゴの里に経費をできるだけかけずに是非、取り組んでいただきたい。町長の見解と今後の見通しについてお聞きいたします。2点目に大人の風疹予防接種費用の全額助成を、について質問させていただきます。国の施策の都合である一定の期間風疹ワク

チンがされていない世代が、今、風疹の流行に繋がっていることが問題になり、少子化問題にも大きな影を落としている現状を踏まえ、地方自治体も既に補助金制度を行っている自治体もあります。牟岐町でも風疹の波が押し寄せてくる可能性があります。徳島県内で現在16名、中でも20歳から40歳までが13名、80%を占めております。ご承知のとおり、妊娠早期に風疹に感染すると、生まれてくるお子さんが先天性風疹症候群にかかり、目や耳に障害が残る恐れがあります。20歳から40歳までの男女希望者に補助金制度を設け、小さな命を守る牟岐町独自の補助金制度を行ってはどうか提案いたします。このことについて、今後の取り組みについてお伺いいたします。3点目に想定を超える災害にどう備えるか、について質問を移らせていただきます。南海トラフ地震対策の内閣の最終報告が出されました。最悪32万1千人、徳島では3万1千人が死亡すると推定されています。過去の南海地震を踏まえても死者の半数近くが海部郡での被害が多くなっていました。そこで、町長就任以来、災害防止策として、さまざまな取り組み、施策がされておりますが、ここでもう一度、やり残したものはないか、中でも25年度中にやり遂げなければならない、海部病院移転について、25年度中に間に合うのか、順調に進んでいるのか、お聞きいたします。2点目に自主防災組織の活用運営、現在までの課題、事故後の円滑な仕組みなどについて、どのようなシミュレーションを持っているのか、お聞きいたします。3点目に特定活断層区域の牟岐町の予測、調査については、活断層は通っていないということですので質問を省きます。4点目の蓄品のさらなる追加、どこまでを限度に考えているのかお聞きいたします。現在、毛布637、人口にしては少なすぎるのではないかと思います。さらに食料100、家庭での備蓄備えも必要だが津波で流されてしまう恐れもあります。東北の大地震の傷跡を検証しても建物1階は全て空洞化されており、家全体が流されてしまっています。尚、水は3,456本、500ミリリットルの水が1人に1つずつ当たらない。特に乳幼児には水は不可欠であります。その他諸々ありますが、発電機においては、出羽島に2台、集会場、観栄寺にあります。杉王備蓄倉庫に1台の合計3台あるのみです。まだまだ足りないのではないかと思います。今後追加の予定とのことですが、行政の支援が届くまで地域で自

活できるように備蓄の上乗せが望ましいと思いますが、具体的手法や費用の見通しはどうなっているのか、ソフト、ハード対策の盛り込んだ最終報告、さらに二次的避難場所、長期避難の対策など、必要に応じ直ちに対応していかなければならないと思います。今一度やり残したものないか、災害減災に向けての今後の取り組みと計画をお聞きいたします。以上、3点について答弁をお願いいたします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 おはようございます。まず物産館千年サンゴの里の河内小学校への移転について検討されてはどうかというふうなご質問について、お答えいたします。昨年3月に物産館の開業を開始してから、およそ1年と3ヵ月が経過いたしました。当初は牟岐町内の土産物販売と観光案内の拠点であり、小規模生産者の交流の場とも考えておりましたが、現在は予想通り機能できておりません。原因といたしましては、多くの町民の方からもいろんなご意見をいただいておりますが、例えば場所が悪い、看板が分かりにくい、商品が少なすぎる等々でございますが、町といたしましてはできるだけ経費の掛からない運営を心がけていることから、その都度、機動的な対応はできておりません。ただ、千年サンゴの里のHPをご覧くださいればよく分かりますけども、牟岐町の観光、店舗、土産物、宿、イベント、不動産案内など多くの情報発信も行ってございます。私といたしましては、小規模生産者をはじめ牟岐町を何とかしたいと思っておられる方々が知恵を出し合い、皆で運営をしていただきたい、また、ネット販売も手掛けていただければありがたいと思っておりましたが、現在では、そこまでの展開には至っておりません。従いまして、議員が言われるように、いつまでも現状のままでは赤字経営を続けることとなりますので、速やかに何らかの対応が必要であると認識いたしております。経費節減のために移転するのであれば、河内小学校跡かJR駅構内なども考えておりますけども、現時点では確定いたしておりません。いずれにいたしましても牟岐町の観光案内所、土産所の機能はどこかに必要であると考えておりますので、できるだけ早く方

向性を決め、議員の皆様にもご相談いたしたいと考えております。続きまして、大人の風疹予防接種費用の助成をとということで、20歳から40歳までの希望の方に無料で助成してはどうかと、牟岐町独自の助成をしたらどうかというふうなご質問でございます。現在、全国的に風疹が流行しておりますが、都市部を中心におこっております。今年の患者数は、5月末時点で8,000人に達し、昨年1年間の既に3倍を超えております。とりわけ風疹で心配されるのが妊婦への感染で、妊娠8週間から12週の間母体が感染すると、約20%の確立で胎児にも感染し、白内障、網膜症、難聴、心臓の奇形、発達の遅れ、小頭症などが見られるということでございます。このようなことから、現在、風疹を予防するため、MRワクチンの接種を行っているところでございますが、成人の予防接種に対する助成事業につきましては、四国知事会でも国に要望しているところでございますので、しばらく国や県の動向を注視しながら検討してまいりたいと考えております。続きまして、想定を超える災害にどのような対応をするかということで、まずは海部病院の移転の進捗状況についてでございますが、昨年9月に移転用地が決定されたのち、国、県、町が緊密に連携し、役割分担をしながら事業の促進に取り組んでおります。しかしながら、病院用地の切土工事は、工事の円滑な執行を図るため、病院への接続道路の整備工事と合わせ県に委託し実施していただけることとなっております。そして、現在は、鋭意用地交渉にあたっておりますが、その交渉も最終段階に入っていると思っております。一日も早い工事着手に向け、国、県、町が一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。なお、町の工事といたしましては、4月に契約いたしました残土処分場と町道補修工事を実施中でございまして、病院用地造成工事の残土受け入れに向け準備を進めております。次に自主防災組織の状況についてでございますが、後で総務課長から詳しいご説明をいたしますが、牟岐町におきましては、津波被害が予想されない中山間地域の自治会などで組織率が悪いということもございましたが、平成24年4月に牟岐町自主防災連合協議会を結成していただき、防災上の各種取組の外、自主防災組織の結成についてもご尽力をいただいております。災害は、沿岸部だけでなく、平成23年の紀伊半島豪雨災害もございましたように、深層崩壊など大規模な山

津波にも対応する必要がございます。少子高齢化、過疎化で防災、災害活動に中心的に関われる人間が減少する中、来たるべき災害に備え、できる限りの準備をしていく必要があると認識いたしております。特に、今後、山津波、地すべり対策としての避難のあり方について、自主防災組織と連携を取りながら、早期に検討していく必要があると考えてございます。議員の皆様方におかれましても、今後ともご指導、ご協力のほど、どうかよろしく願いいたします。備蓄の状況につきましては、のちに総務課長の方から詳しくご説明いたします。どうかよろしく願いいたします。

枅富議長 藤井健康生活課長。

藤井健康生活課長 私の方からは、風疹予防対策につきまして、追加で説明の方をさせていただきます。風疹予防対策としましては、助成は、昭和37年4月2日以降の生れで、現在51歳までの方については、予防接種を実施しております。また、昭和54年4月2日以降の生れで現在34歳までの男性も予防接種を実施しております。このため議員がおっしゃる20歳から40歳までの間の未接種者は、予防接種制度の対象外であった昭和48年4月2日から昭和54年4月1日に生まれた34歳から40歳までの男性、127名と、あと予防接種の対象者であっても未接種となっている方となっています。また、この中には、既に風疹に罹られた方で抗体をお持ちの方もおいでますので、成人の風疹予防接種助成につきましては、抗体検査も考慮するとともに国、県の動向を注視しながら検討したいと思います。以上です。

枅富議長 栗林総務課長。

栗林総務課長 それでは、榎谷議員の質問に町長の補足として、お答えさせていただきます。私の方からは、自主防組織の活用運営と備蓄品の関係をお答えしたいと思います。町長の説明にもありましたが、平成24年4月に牟岐町の自主防災連合協議会を結成していただきました。毎年、国、県、町主催の数々

の防災訓練並びに行事等にご協力をいただいております。本年も数回にわたり、各自主防の備蓄品等の会合を開催いたしましたところ、各代表の方々にはご参加、ご協議いただきまして、この場をお借りいたしまして、お礼を申し上げます。また、今後とも引き続き、ご協力のほどお願いいたします。さて、現在の自主防災組織の組織状況は、平成25年4月1日現在であります。20組織で結成されております。組織率は75.4%、この7月1日に3地区ですが、東の東、喜来、西又で結成予定でございます。また、以前から組織されております、大灘自主防災組織では、大平間、中山地区を含め、拡大を予定しております。これらを含めると、組織率が87.5%になります。残りの5地区、清水、川又、辺川、横瀬、杉王について、自主防災組織100%を目指し、年内の結成を引き続き呼びかけてまいりたいと思います。また、これ以外では、市宇ヶ丘学園内に小中学校や災害協定を締結いたしました牟岐少年自然の家における避難所運営について、各自主防災組織、教員、指定管理者と検討してまいりたいと思います。これら100%組織されれば、それぞれの地域の問題点をこの連合会等で協議いただきながら、災害に向けた取り組みをしていただけたらと考えております。次、備蓄品さらなる追加ということでございますが、今現在、自主防の要望をお聞きいたしまして、備蓄倉庫、発電機等を随時整備しております。備蓄品については、各自主防で独自に備蓄していただいております。これは、先ほど議員もおっしゃっていただきました。それから、毛布等の数値につきましても以前から私どもが申し上げたとおり、議員さんも言われた数字で経緯しております。今後、また、予算の範囲内で毛布等も随時配備していきたいと思っておりますが、なかなか一朝一夕、すぐにできるものではないと思っております。また、今回の予算で町としての備蓄、食料等で予算を3,000千円計上させていただいております。ほぼ町民全員の3日分の食料、お米と飲料水だけで試算しますと、金額にして、約26,000千円から30,000千円が必要となります。食料につきましても、5年計画で単年度7,000千円必要ですが、保存期間が5年間というのがございますので、5年を過ぎると、それを一気に替えるか5年計画であれば1年、1年替えていくことによって、多額の予算がいるということで、今回の補正につきまし

では、助成金がございますので、まずは、今年はこれで計画していきたいと思
います。また、内閣府南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループの最終
報告ということでありましたが、各家庭においては7日間の備蓄をするよう
という報告が出されております。非常に難しい問題ではありますが、そういっ
た点も踏まえながら、これから備蓄品、保存場所、あるいは、管理体制を十分
協議が必要だと思っておりますので、自主防の方で協議をいろいろご相談した
いと思っておりますので、よろしく申し上げます。最後に町民の皆様には、一
時避難時の自分の食料は自分でという、以前からの姿勢でございますが、用
意、備蓄くださいますよう、お願いを申し上げます、私の答弁に代えさせ
いただきます。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再問させていただきます。牟岐町物産館千年サンゴの里につ
いては、今検討中という答弁でございましたけども、時期的にいつ頃を目途
をされるのか、再度お聞きいたします。いつまでを軸にしているのか、再
度お聞きいたします。それから、もう1点になりますが、大人の風疹予防接
種の全額助成をということですが、国とか県の動向を見てとありましたが、
町独自では考えられないのか、それから、女性だけでなく男女ということに
なりますので、今、答弁を聞いておりますと、各、ごく限られた30歳から
43歳までの方ということですので、今、答弁の中では、既に風疹に罹った
人もいます。また、免疫を持っていらっしゃる方もおいでということでは
ありますので、町独自でその希望者に対しての助成はできないものかどう
か再度お聞きいたします。3点目になります、想定外を超える災害につ
いて、どう備えるかについてですが、備蓄ということで、発電機の要望が
きていると思うんですけども、何台の要望がきて何台補助する予定がある
のか、お聞きいたします。そして、先ほど、答弁の中で家庭でも備蓄とい
うことで、これは国から県からそういうような要請がありますし、各家庭
の方もそんなので家にたくさんの方が備蓄しております。しかし、東北
の県庁を見に行きましても、先ほど言いましたように備蓄していても空
洞化されていたり、家自体が流されて

いたりするので、備蓄が備蓄にならないというケースもございます。特に牟岐町は津波に対しての災害、これを考えておかなければいけないと思いますので、そういった被害も踏まえて、やっぱり南海トラフということになったら、牟岐町だけの問題ではなく、各隣町、海部郡内、東海、東南海ということになったら、3日間以上に物資が届かない可能性もあるかと思えます。そういうことも踏まえて備蓄の最低限、1つずつ当たるぐらいの水、これらは確保しておいた方が良くはないかと思えます。当然、中学校のところに水タンクがあって備蓄されるようになっておりますけども、やはり乳幼児をもっていらっしゃる方が優先ということになりますので、皆さんが皆に渡るようになるのかという疑問があります。以上、再問いたします。答弁の方をよろしくお願いいたします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 再問についてでございますけども、まずは千年サンゴの里、移転を計画するのであればいつまでというご質問でございますけども、現時点では、まだ決まっておりません。基本的には千年サンゴの里、商工会さんの方で管理運営を委託しております。商工会さんの方にもご相談しなければいけないし、それから、今、牟岐町再生会議の方でもいろんな議論がございます。ですから、皆さんで決めて結論を出していきたいと思えます。決定する前に議員の皆様には事前にご相談したいと思えますので、よろしくお願いいたします。それから、風疹についてでございますけども、町独自で助成できないかということがございます。確かに非常に少子化が進む牟岐町におきましては、独自の施策というのがあっても然るべきかと思えますけども、四国の知事会の方でその助成についての動きがありますので、どういうふうになるのか、それをまず確認して、それから動いてもいいのではないのかと今の段階では考えております。それから、備蓄の話してございますけども、この1週間というのは、内閣府のこの間の南海トラフ地震への対策、対応ということで、これだけ広域な地震が起こりますと、国とか県の方の対応も限定されるということで、まずは自助、自分の

命は自分で守ってくださいというのは原則ですよということを言われております。議員が言われましたように家庭で備蓄しても流されてしまうということでございますけども、今、町で考えてございますのは、津波の浸水区域、その浸水区域に入って流されてしまうような世帯の方は、何とか町の方で備蓄していきたくて考えておりますけども、全町分はとてもカバーできないということでございます。5年に1回、食料とか水は更新していかなければいけないということもあって、今後、継続的に非常に多くの経費が掛かるということもあります。そういうことも考えながらみんなでどういうふうなことをやったらいいのかというのを知恵を出しながら検討してまいりたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

枳富議長 藤井健康生活課長。

藤井健康生活課長 町長の方から答弁がありました風疹の検討につきましては、町長が言ったとおりだと思っておりますが、現在、母子の健康保健事業の方で風疹につきましては抗体検査を実施していますし、また、婚姻届の届け時にも案内をさせていただいております。以上です。

枳富議長 栗林総務課長。

栗林総務課長 再問にお答えいたします。発電機でございますけども、今年もうすぐ入札予定としています。確か5件かそこらぐらいだったと思うのですが、すいません、確実なものを記憶しておりませんが、確かそのぐらいだったと思うので、早急に、この前から先の答弁で申し上げたように地域自主防でいろいろお話しさせていただいて、今、必要という自主防に付議した機数ですので、今後、また、要望がありましたら対応していきたいと、ですが、今、県の補助を受けてやっていますので、一応、それらも考慮しながら、すぐに要望がきたからできますよということにはならないと思います。それ以外には、備蓄倉庫といたしましては、全部で7箇所、同じような形で整備させていただいて

おります。それから、飲料水につきましては、議員さんも言っていたように、前の事業で町民体育館前、中学校に60t、5千人の何日分というような形で備蓄しておりますけども、今回の予算につきましても、一応、おっしゃったような水につきまして備蓄しようかということで計画。先ほど言いました、全部やると何千万円いるということなので、単年度、単年度でいろいろ計画を立てながらしていきたいという担当課としての考えでございます。他にもたくさんか分かりませんが漏れていましたので申し訳ないですけど、一応、これで終わります。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再問について答弁をしていただきました、牟岐町物産館千年サンゴの里の移転については、長ければ長いほど月のものもいりますので、できるだけ早い段階で結論を出していただいてスムーズに軽減に向かっていけるようお願いしたいと思います。それから、大人の風疹については、今現在、かなり大きな波でこちらの方にも寄せてくると思いますので、波を断ち切る防波堤になれるように、一日も早く接種の費用全額助成に向けて補助をいただきますようお願いいたします。それから、最後になります、想定外の津波についてですが、想定外を超える津波についてですが、各部落に倉庫を付けてあります。この地域は必ず津波に遭うと、津波に浸かってしまうというふうな地域については、倉庫に家庭に置いている備蓄を置いてもいいのかどうかということの一つ確認しておきたいと思います。というのは、持っていくのが備蓄で、置いていくのが家庭での備蓄だと思うのですが、置いていった場合に流されてしまう可能性もある。持っていく時には、かなり重たい、逃げにくいということもありますので、既に倉庫が建っているその中に自分の名前を書いて置くというふうな方法はできるのでしょうか。そこを一つ聞きたいと思います。

枅富議長 栗林総務課長。

栗林総務課長 備蓄倉庫につきましては、いろいろ議論がございまして、地域の自主防に管理をお願いしたいという建て前でやっています。中の備蓄品につきましては、町も配布する部分もありますけども、使用としては自主防や地域で考えていただきたいと思います。使い方につきましては、というのは、災害のおりに避難場所に置いてあるのですけども、必ずしも設営した自主防の方だけが逃げるのではなく、他の地域からも逃げてこられると思うのです。その時に私の分だからというふうな議論があるわけなのです。管理しているから、他の地域の人に来てあげられませんかということを町としては、こういう指導がしにくいというところがありますので、できれば、地域自主防でどういう管理の仕方をするか、先ほど言った個人さんもそこへ行けばいいのですけど、基本は持って逃げていただく方が、当然、そこまで行けるかどうかというのも不安です。確かに逃げていただいて、最終的にその場で皆さんが譲り合いますかというような形で作り上げた地域の防災計画であれば、そういう形もあるのでしょうけども、今、できていない地域の方も一緒にという議論もあります。管理の面でいろいろ、きたら私のところで管理するけども、その時だけで災害になった時に違う人のためにというのができないという意見もあるのだということはお聞きしていますので、非常にこれですという答えができませんので、すいませんけど、自主防の方とかでいろいろ考えて共に知恵を出せたらと思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 それでは、3点についての質問、各々出させていただきました。最後の再問でしましたとおりに、できるだけ順調に進んでいただきたいと思います。これで私の一般質問を終わります。